

小学4～6年生の子どもを持つ保護者が家庭で行った就学前後の性教育の実態

道園亜希* 古田祐子* 佐藤繭子* 石村美由紀*

The current status of sexual education provided at home by parents before and after their children enter elementary school 4-6

Aki DOZONO Yuko FURUTA Mayuko SATO Miyuki ISHIMURA

Abstract

This study aimed to investigate the current status (content, response, and parents' confidence) of sexual education provided at home by parents before and after their children enter elementary school. An anonymous self-administered questionnaire survey was conducted, and 277 responses returned by post were analyzed. As the results, "the situation and parents' feelings when the child was born" and "kissing and sexual intercourse" were the most and least common subjects discussed at home, respectively. The most common subjects that parents told children the truth about were "How does a baby grow?" and "How did the mother feel when she had her first period?". Whereas, the most common topic to which parents made vague answers or told lies was "How do you make a baby?". A subject about which the parents felt most and least confident discussing was "the situation and parents' feelings when the child was born" and "kissing and sexual intercourse", respectively. More than 80% of the parents considered the need of sex education, and responded that they need information about sexual education. A comparison of sexual education provided before and after school entry revealed that there was a difference in the contents of sexual education that parents provided, response to children's questions, and the number of topics that parents are not confident discussing. Although the parents acknowledged the importance of providing sexual education at home, they had difficulty responding and were not confident discussing some topics. These findings suggest the need to provide sexual education at home according to the stages of children's development, and to support parents based on their needs.

Key words: Preschool child, Elementary school student, Parents, Home, Sexual education

要 旨

小学生の子どもをもつ保護者が就学前後に家庭で行った性教育の実態（内容・対応・自信状況）を明らかにすることを目的とした。無記名自記式質問紙調査により、郵送法にて回収した277部を分析対象とした。結果、家庭での性教育経験が最も多かった内容は「子どもが産まれた時の状況や気持ち」、最も少なかったのは「キスや性交」であった。対応で、真実を話したのは「赤ちゃんはどうやって大きくなるのか」「ママが初めて生理を迎えた時の気持ち」が最も多かった。また、曖昧に答えたり嘘を答えた対応が最も多かったのは「赤ちゃんはどうやったらできるのか」であった。最も自信があったのは「子どもが産まれた時の状況や気持ち」であり、最も自信がなかったのは「キスや性交」であった。8割以上の保護者が家庭での性教育を必要と回答し、性教育に関する情報提供を必要としていた。就学前後を比較すると、一部性教育の経験内容と対応、及び自信がない項目の割合の違いが明らかになった。保護者は家庭での性教育の必要性を認識しているが、内容によっては対応に苦慮し自信が持てない状況が伺えた。これらのことから、子どもの成長発達に準じた家庭性教育が必要であり、保護者のニーズに応じた支援の必要性が示唆された。

キーワード：未就学児、小学生、保護者、家庭、性教育

*福岡県立大学看護学部看護学部
Faculty of Nursing, Fukuoka Prefectural University

連絡先：〒825-8585 福岡県田川市伊田4395番地
福岡県立大学臨床看護学系
道園亜希
E-mail: dozono@fukuoka-pu.ac.jp

緒言

2009年に発行された「国際セクシュアリティ教育ガイドンス」¹⁾には、子どもが性に関して責任ある選択ができる知識・スキル・価値観を身につけるために、5歳から段階的に性教育を実施していく必要性が述べられている。性教育は胎児期にすでに始まっており²⁾、性感情が歪められていない幼少期から性をどう印象づけるかは、将来まで大きな影響を与えること³⁾⁴⁾が明らかとなっている。鏡原ら⁵⁾が行った女子高校生を対象にした研究では、幼少期から家族の関係性の中で培われた性に関する価値観が性交への自己規制となっていた。

子どもにとって最も身近な保護者の性に対する価値観や態度は、子どもの性に対する価値観の形成や態度・行動に大きく影響する。家庭での性教育は、学校での性教育の基盤になると考えられ、今回、子ども達の生活拠点となる家庭での性教育に着目した。

今回調査対象としたA市のあるB県は、性犯罪、10代の人工妊娠中絶率共に全国トップクラスであり、A市も同様の傾向がみられる。このような社会の中で子ども達が自らの性と生殖に関する健康を形成・獲得する為には、家庭での保護者の関わりがより一層大切であり、保護者が家庭で性教育を実施するための支援が必要と考える。そこで今回はその基礎研究として、行政、大学(助産師)間の連携による家庭における性教育支援のあり方を検討する資料とするために、小学4～6年生の子どもをもつ保護者が家庭で行っている性教育の実態を明らかにすることを目的に調査を行った。

なお、本研究で扱う性教育とは、生殖や性器機能のみに焦点をあてたものではなく、ライフスキルの獲得をも含めた生き方教育とする。現代性科学・性教育辞典⁶⁾には、性教育とは、単に生理学的・解剖学的な内容を扱う性器教育ではなく、人間関係における心理学的・社会的な側面やその背景となる生育環境など、人格と人格との触れ合いを含む幅広い概念を持った教育とある。性教育は、人間の性、性的存在としての人間の全人格と全生涯にわたるセクシュアリティの教育であり、他者との繋がりや愛、自己の性や生に対する価値観を構築するための人生教育と考えるため、このように定義する。

研究方法

1. 研究デザイン

無記名自記式質問紙調査票を用いた量的研究。

2. 調査対象

A市内8校の小学校に通う4～6年生の保護者

3. 調査期間

平成29年7月～9月

4. 調査手順

A市内教育委員会を通して小学校校長に研究主旨を説明した。研究協力の同意が得られたのは、9校中8校であり、小学校に通う4～6年生の保護者を対象に、依頼書および調査票を配布した。調査票は学校から児童を通して保護者へ配布し、郵送法にて回収した。配布数1,184部、回収数277部(回収率23.4%)、有効部数277部(有効回答率100%)であった。

5. 調査内容

調査票は、A市教育委員会、子育て支援課、社会福祉課職員、保健師および共同研究者を含めた10名で作成した。調査票には、小学校就学前に行った性教育と就学後から現在までに行った具体的な性教育内容を設定した。性教育内容の項目数は、就学前13項目、就学後15項目とし、追加2項目は「二次性徴」と「男女交際」に関する内容とした。具体的教育内容は各項目に対して子どもの発育発達に見合った内容とし、子どもから質問される可能性が高い内容および保護者が教育しうる内容を年齢に応じた言葉で表記した。(表1、2)

6. 分析方法

Excel2013を用い、単純統計分析を行った。

7. 倫理的配慮

研究協力校には、本研究への協力は自由意思であり、協力しないことでの不利益は一切生じないこと、匿名性の保持、個人情報の保護を書面にて説明した。保護者にも同様の内容を書面にして調査票に同封し、調査票の返送をもって研究協力への同意を得たものとした。本研究は、福岡県立大学研究倫理部会の承認を得て実施した。

結果

1. 属性

回答者の平均年齢は40.0±4.2歳。母親91.0%、父親6.5%、祖母1.1%、両親0.7%であった。子どもの平均人数は、2.3±1.0名。家族構成は、核家族世帯

表1 就学前の子どもへの家庭での性教育内容（調査票掲載内容）

項目	具体的な教育内容
受精	①赤ちゃんはどうやったらできるのか
妊娠	②赤ちゃんはどうやって大きくなるのか
出産	③赤ちゃんはどうやって生まれてくるのか
恋愛・結婚	④なぜパパ又はママを好きになったのか
性の個人差	⑤女の人におちんちんがないのはなぜか
性器の清潔保持	⑥ペニスや陰部の洗い方はどうするか
月経について	⑦お風呂で月経に子どもが気づいた
生命の大切さ	⑧兄弟（姉妹）が生まれた時のこと
親の気持ち	⑨お子様が生まれた時の状況や気持ち
人間関係	⑩ごめんなさい、ありがとう等の習慣
異性との交際	⑪好きな子ができた、キスをした等
性被害	⑫プライベートゾーン、知らない人についていけない、嫌な時は嫌という等
多様な性のあり方	⑬男性で女装しているテレビタレントについて、多様な性について（LGBT等）

表2 小学生の子どもへの家庭での性教育内容（調査票掲載内容）

項目	具体的な教育内容
受精	①赤ちゃんはどうやったらできるのか
妊娠	②赤ちゃんはどうやって大きくなるのか
出産	③赤ちゃんはどうやって生まれてくるのか
恋愛・結婚	④なぜパパ又はママを好きになったのか
性の個人差	⑤女の人におちんちんがないのはなぜか
性器の清潔保持	⑥ペニスや陰部の洗い方はどうするか
月経について	⑦ママが初めて生理を迎えた時の気持ち
生命の大切さ	⑧親族が亡くなった時や人の死について
親の気持ち	⑨お子様が生まれた時の状況や気持ち
人間関係	⑩友達と喧嘩した時の仲直り方法
二次性徴	⑪胸のふくらみ、声がわり等
異性との交際	⑫好きな異性はいるか ⑬キスや性交（セックス）について
性被害	⑭プライベートゾーン、性被害に合わないための身なりや行動、嫌な時は嫌という等
多様な性のあり方	⑮男性で女装しているテレビタレントについて、多様な性について（LGBT等）

66.1%、三世代以上が同居する世帯15.5%、ひとり親世帯15.2%、その他1.4%であった。

2. 就学前の子どもに対する性教育の経験

調査対象は277部だが、就学前の家庭性教育に関する調査項目が未記入のものが20部あり、それらを除く257名を分析対象とした。（就学前の家庭性教育に関する有効回答率92.8%）

1) 就学前の子どもから性に関する質問を受けたまたは話をした経験（表3）

13項目中、子どもから聞かれたり話をした経験が最も多かった項目は、「ごめんなさい、ありがとう等の習慣」が93.0%、次いで「子どもが生まれた時の状況や親の気持ち」86.8%、「プライベートゾーン・知らない人についていけない」85.6%、「赤ちゃんはどうやって生まれてくるのか」70.4%の順であった。

最も少なかった項目は「女の人におちんちんがないのはなぜか」33.9%であった。

2) 就学前の子どもに対する家庭での性教育の対応状況（複数回答：表4）

性に関する内容を子どもに聞かれたり話をした経験があると回答した者に、どのような対応をしたかを回答してもらった。対応は次の3つの選択肢とした。①子どもが理解できる言葉で真実を話した、②曖昧に答えたり嘘を答えたりした、③話を変えたり、聞こえなかったふりをした。3つの選択肢は、複数回答とした。

①子どもが理解できる言葉で真実を話した者が90%以上を占めた項目は、「お子様が生まれた時の状況や気持ち」、「ペニスや陰部の洗い方」、「ごめんなさい、ありがとう等の習慣」、「プライベートゾーン、

知らない人についていけない、嫌な時は嫌という等」、
「赤ちゃんはどうやって大きくなるのか」、「兄弟姉妹が生まれた時のこと」、「好きな子ができた、キスした」の6項目であった。最も低率であったのは「赤ちゃんはどうやってできるのか」であり、45.1%であった。一方、②曖昧に答えたり嘘を答えたりした者が最も多かった項目は「赤ちゃんはどうやってできるのか」であった。③話を変えたり、聞こえなかったふりをした者が最も多かったのは、「お風呂で月経血に子どもが気づいた」6.1%であった。

3) 就学前の子どもに対する家庭での性教育に対する自信 (表3)

就学前の子どもに対する家庭での性教育に対する

自信の有無を問うと、自信があると回答した者が最も多い項目は、親の気持ちや人間関係に関する内容で、「お子様が生まれた時の状況や気持ち」「ごめんなさい、ありがとう等の習慣」が共に66.9%、次いで、性被害に関する項目「プライベートゾーン、知らない人についていけない、嫌な時は嫌という等」63.0%であった。自信がない項目で最も多かったのは、「赤ちゃんはどうやってできるのか」52.1%、次いで「女の人におちんちんがないのはなぜか」46.7%、「赤ちゃんはどうやって生まれてくるのか」35.8%の順であった。

表3 就学前の子どもに対する家庭での性教育の経験および家庭で性教育を行うことへの自信の状況

N=257 人数(%)

質問項目	性に関する質問を受けた経験			性教育を行うことへの自信		
	あり	なし	無回答	自信あり	自信なし	無回答
① 赤ちゃんはどうやってできるのか	142(55.3)	115(44.7)	0	74(28.8)	134(52.1)	49(19.1)
② 赤ちゃんはどうやって大きくなるのか	134(52.1)	121(47.1)	2(0.8)	146(56.8)	61(23.7)	50(19.5)
③ 赤ちゃんはどうやってうまれてくるのか	181(70.4)	74(28.8)	2(0.8)	113(44.0)	92(35.8)	52(20.2)
④ なぜパパ又はママを好きになったのか	131(51.0)	123(47.9)	3(1.2)	128(49.8)	79(30.7)	50(19.5)
⑤ 女の人におちんちんがないのはなぜか	87(33.9)	166(64.6)	4(1.6)	86(33.5)	120(46.7)	51(19.8)
⑥ ペニスや陰部の洗い方はどうするか	141(54.9)	112(43.6)	4(1.6)	135(52.5)	71(27.6)	51(19.8)
⑦ お風呂で月経血に子どもが気づいた	131(51.0)	117(45.5)	9(3.5)	118(45.9)	87(33.9)	52(20.2)
⑧ 兄弟(姉妹)が生まれた時のこと	157(61.1)	85(33.1)	15(5.8)	145(56.4)	54(21.0)	58(22.6)
⑨ お子様が産まれたときの状況や気持ち	223(86.8)	31(12.1)	3(1.2)	172(66.9)	36(14.0)	49(19.1)
⑩ ごめんなさい、ありがとう等の習慣	239(93.0)	16(6.2)	2(0.8)	172(66.9)	34(13.2)	51(19.8)
⑪ 好きな子ができた、キスをした等	93(36.2)	161(62.6)	3(1.2)	129(50.2)	76(29.6)	52(20.2)
⑫ プライベートゾーン、知らない人についていけない、嫌な時は嫌という等	220(85.6)	34(13.2)	3(1.2)	162(63.0)	43(16.7)	52(20.2)
⑬ 男性で女装しているテレビタレントについて多様な性について (LGBT等)	124(48.2)	129(50.2)	4(1.6)	130(50.6)	75(29.2)	52(20.2)

表4 就学前の子どもから性に関する質問を受けた時の対応状況 (複数回答)

人数(%)

質問項目	n	子どもが理解できる言葉で真実を話した	曖昧に答えたり嘘を答えたりした	話を変えた、聞こえなかったふりをした
① 赤ちゃんはどうやってできるのか	142	64(45.1)	72(50.7)	2(1.4)
② 赤ちゃんはどうやって大きくなるのか	134	125(93.3)	6(4.5)	1(0.7)
③ 赤ちゃんはどうやってうまれてくるのか	181	120(66.3)	61(33.7)	1(0.6)
④ なぜパパ又はママを好きになったのか	131	105(80.2)	25(19.1)	2(1.5)
⑤ 女の人におちんちんがないのはなぜか	87	51(58.6)	35(40.3)	1(1.1)
⑥ ペニスや陰部の洗い方はどうするか	141	138(97.9)	2(1.4)	0
⑦ お風呂で月経血に子どもが気づいた	131	102(77.9)	30(22.9)	8(6.1)
⑧ 兄弟(姉妹)が生まれた時のこと	157	146(93.0)	10(6.4)	1(0.6)
⑨ お子様が産まれたときの状況や気持ち	223	221(99.1)	0	0
⑩ ごめんなさい、ありがとう等の習慣	239	231(96.7)	0	0
⑪ 好きな子ができた、キスをした等	93	84(90.3)	5(5.4)	1(1.1)
⑫ プライベートゾーン、知らない人についていけない、嫌な時は嫌という等	220	212(96.4)	1(0.5)	1(0.5)
⑬ 男性で女装しているテレビタレントについて多様な性について (LGBT等)	124	108(87.1)	12(9.7)	2(1.6)

3. 小学生の子どもに対する家庭での性教育の実態

1) 小学生の子どもに対する性教育の経験 (表5)

最も多かったものは、「お子様が生まれた時の状況や気持ち」88.1%、次いで「友達と喧嘩した時の仲直り方法」81.2%、「好きな異性がいるか」77.6%、「親族が亡くなった時や人の死について」77.3%の順であった。最も少なかった項目は、「キスや性交(セックス)について」18.4%であった。

2) 小学生の子どもに対する家庭での性教育の対応状況 (複数回答: 表6)

15項目について、聞かれたり話をした経験があると回答した者に、どのような対応をしたかを選択回答してもらった。選択肢は①子どもが理解できる言葉で真実を話した、②曖昧に答えたり嘘を答えたりした、③話を変えたり、聞こえなかったふりをしたの3つの選択肢であり、複数回答可とした。

①子どもが理解できる言葉で真実を話したという者が90%以上を占めた項目は、「赤ちゃんはどうやって大きくなるのか」「ペニスや陰部の洗い方はどうするか」「ママが初めて生理を迎えた時の気持ち」「親族が亡くなった時や人の死について」「お子様が生まれたときの状況や気持ち」「友達と喧嘩した時の仲直り方法」「胸のふくらみ、声変わり等」「プライベートゾーン、性被害にあわないための身なりや行動、嫌な時は嫌という等」の8項目であった。最も低率であった項目は、「キスや性交(セックス)について」

であり51.5%であった。

②曖昧に答えたり嘘を答えたりした対応が最も多かった項目は、「赤ちゃんはどうやってできるのか」であり42.9%であった。③話を変えたり、聞こえなかった振りをした対応が最も多かった項目は「男性で女装をしているテレビタレントについて、多様な性について(LGBTなど)」であり21.7%であった。

3) 小学生の子どもに対する家庭での性教育に対する自信の状況 (表5)

小学生の子どもへの家庭性教育に対する自信を問うと、自信があると回答した最も多い項目は「お子様が生まれた時の状況や気持ち」63.5%であった。次いで、「赤ちゃんはどうやって大きくなるのか」63.2%、「友達と喧嘩した時の仲直り方法」55.6%の順であった。

自信がない項目で最も多かったものは、「キスや性交(セックス)について」52.4%、「赤ちゃんはどうやってできるのか」45.8%であった。

4. 保護者が学校に求める性教育の内容 (図1: 複数回答)

保護者が小学校で教えてもらいたいと考えている項目を複数回答で問うたところ、上位3項目は「いのちの大切さ」241名(87.0%)、「男女のからだの違い」214名(77.3%)、「生理(月経)」211名(76.2%)であった。下位項目は「望まない妊娠・避妊法」105名(37.9%)、「性感染症」101名(36.5%)、「結婚」

表5 小学生の子どもに対する家庭での性教育の経験および家庭で性教育を行うことへの自信の状況

N=277 人数(%)

質問項目	性に関する質問を受けた経験			性教育を行うことへの自信		
	あり	なし	無回答	自信あり	自信なし	無回答
① 赤ちゃんはどうやってできるのか	175(63.2)	92(33.2)	10(3.6)	95(34.3)	127(45.8)	55(19.9)
② 赤ちゃんはどうやって大きくなるのか	196(70.8)	71(40.1)	10(3.6)	175(63.2)	47(16.9)	55(19.9)
③ 赤ちゃんはどうやってうまれてくるのか	208(75.1)	58(20.9)	11(4.0)	136(49.1)	85(30.7)	56(20.2)
④ なぜパパ又はママを好きになったのか	160(57.8)	104(37.5)	13(4.7)	148(53.4)	74(26.7)	55(19.9)
⑤ 女の人におんちんがないのはなぜか	91(32.9)	176(63.5)	10(3.6)	99(35.7)	122(44.1)	56(20.2)
⑥ ペニスや陰部の洗い方はどうするか	155(56.0)	112(40.4)	10(3.6)	143(51.6)	76(27.5)	58(20.9)
⑦ ママが初めて生理を迎えたときの気持ち	93(33.6)	171(61.7)	13(4.7)	144(52.0)	75(27.1)	58(20.9)
⑧ 親族が亡くなった時や人の死について	214(77.3)	51(18.4)	12(4.3)	163(58.8)	57(20.6)	57(20.6)
⑨ お子様が生れたときの状況や気持ち	244(88.1)	23(8.3)	10(3.6)	176(63.5)	44(15.9)	57(20.6)
⑩ 友達と喧嘩した時の仲直りの方法	225(81.2)	39(14.1)	13(4.7)	154(55.6)	66(23.8)	57(20.6)
⑪ 胸のふくらみ、声変わり等	163(58.8)	100(36.1)	12(4.3)	150(54.2)	70(25.2)	57(20.6)
⑫ 好きな異性がいるか	215(77.6)	51(18.4)	10(3.6)	148(53.4)	72(26.0)	57(20.6)
⑬ キスや性交(セックス)について	51(18.4)	214(77.3)	12(4.3)	74(26.7)	145(52.4)	58(20.9)
⑭ プライベートゾーン、性被害にあわないための身なりや行動、嫌な時は嫌という等	164(59.2)	100(36.1)	11(4.0)	141(50.9)	79(28.5)	57(20.6)
⑮ 男性で女装しているテレビタレントについて多様な性について(LGBTなど)	161(58.1)	104(37.5)	12(4.3)	142(51.3)	78(28.1)	57(20.6)

表6 小学生の子どもから性に関する質問を受けた時の対応状況 (複数回答)

項目	n	人数(%)		
		子どもが理解できる言葉で真実を話した	曖昧に答えたり嘘を答えたりした	話を変えた、聞こえなかったふりをした
① 赤ちゃんはどうやってできるのか	175	102(58.3)	75(42.9)	5(2.9)
② 赤ちゃんはどうやって大きくなるのか	196	196(100.0)	1(0.5)	1(0.5)
③ 赤ちゃんはどうやってうまれてくるのか	208	167(80.3)	40(19.2)	4(1.9)
④ なぜパパ又はママを好きになったのか	160	138(86.3)	22(13.8)	3(1.9)
⑤ 女の人におちんちんがないのはなぜか	91	74(81.3)	16(17.6)	3(3.3)
⑥ ペニスや陰部の洗い方はどうするか	155	155(100)	0	0
⑦ ママが初めて生理を迎えたときの気持ち	93	93(100.0)	2(2.2)	0
⑧ 親族が亡くなった時や人の死について	214	210(98.1)	6(2.8)	0
⑨ お子様が産まれたときの状況や気持ち	244	242(99.2)	2(0.8)	0
⑩ 友達と喧嘩した時の仲直りの方法	225	219(97.3)	2(0.8)	0
⑪ 胸のふくらみ、声変わり等	163	154(94.5)	9(5.5)	0
⑫ 好きな異性がいるか	215	191(88.8)	17(7.9)	3(1.4)
⑬ キスや性交(セックス)について	51	99(51.5)	15(15.1)	6(6.1)
⑭ プライベートゾーン、性被害にあわないための身なりや行動、嫌な時は嫌という等	164	155(94.5)	5(3.0)	0
⑮ 男性で女装しているテレビタレントについて、多様な性について(LGBTなど)	161	142(88.2)	43(26.7)	35(21.7)

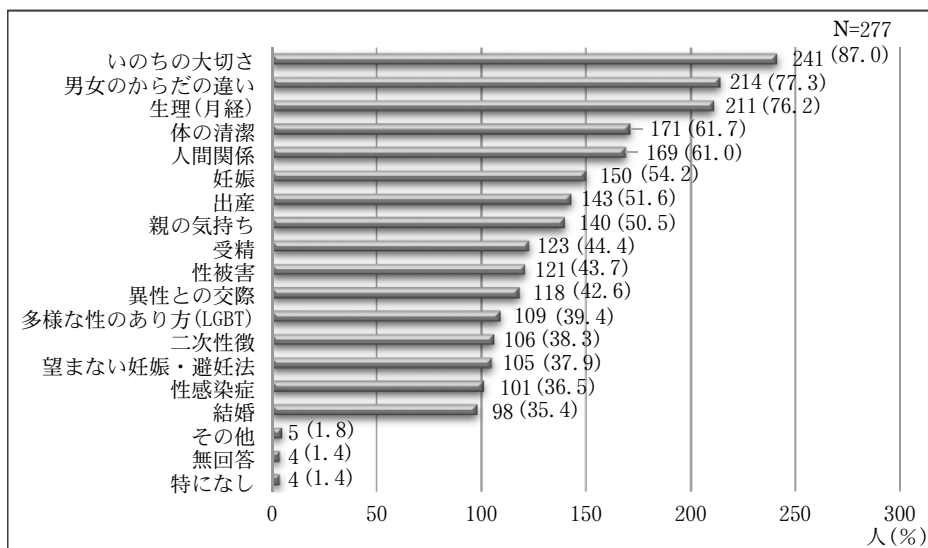


図1 保護者が学校に求める性教育の内容

98名(35.4%)であった。「その他」に回答した者は「不妊症について」「子育ての大変さ」に関する教育を希望しており、「状況に応じて教えていくのが良い」と回答した者が1名いた。

5. 家庭での性教育実施状況

家庭で性に関する話をする際、どのように実施しているかを①子どもから質問があったとき、②大人からタイミングをみて、③子どもと話す時間や機会をつくっている、④特に何も考えていない、⑤性教育に関する本や絵本を見せているの5選択肢で問うたところ(複数回答可)、最も多かったものは「子どもから質問があったとき」222名(80.1%)、「大人か

らタイミングをみて」78名(28.2%)、「子どもと話す時間や機会をつくっている」56名(20.2%)、「特に何も考えていない」43名(15.5%)、「性教育に関する本や絵本を見せている」7名(2.5%)、無回答4名(1.4%)であった。

6. 家庭での性教育の必要性

家庭での性教育の必要性について「とてもそう思う」と回答した者は60名(21.7%)、「そう思う」177名(63.9%)、「あまりそう思わない」33名(11.9%)、「思わない」2名(0.7%)、「無回答」5名(1.8%)であり、約8割以上の保護者が、家庭で性教育を行う必要があると回答していた。

7. 思春期の子どもをもつ保護者を対象とした性教育に関する情報提供の必要性

「とても必要」62名(22.4%)、「必要」166名(59.9%)、「あまり必要ではない」38名(13.7%)、「不要」4名(1.4%)、無回答7名(2.5%)であった

考 察

1. 就学前後の子どもに対する性教育の経験

小学校就学前の家庭での各項目別性教育経験率は、93.0%から33.9%であり、就学後では88.1%から18.4%であった。これは、就学前後のいずれであっても、性教育経験率は項目によるバラツキがあることを示唆する。つまり、性教育しやすい項目と性教育しにくい項目があったことがわかる。しかし、今回提示した性教育内容について、就学前あるいは就学後に保護者全員が全く経験しなかった項目はなく、また、8割以上の保護者が子どもから質問があったら話すとは回答していた。したがって、今回提示したすべての性教育内容は、家庭で行う機会がある性教育内容であり、性教育の機会は保護者ではなく、子どもがつくっていると考えられる。そのため、性教育の機会は突然訪れることが予想され、保護者は性教育に対する知識と心の準備が求められる。

本調査は小学校4～6年生の子どもをもつ保護者を対象に行った。小学校4～6年生といえば二次性徴が開始される時期であるが、「月経」に関する項目は、子どもが就学前の方が、話をしたり質問を受けた経験が5割であるのに対し、小学生では3割程度に留まっており、家庭において二次性徴に関する会話や教育があまり話題になっていない現状が明らかとなった。

同様に「性被害」の予防に関するプライベートゾーンについて等の話をしたり質問を受けた経験も、就学前が8割程度なのに対し、小学生では5割程度と低い傾向がみられた。今回の調査では、「子どもから質問を受けた又は話をした経験の有無」を尋ねたため、子どもから質問がなかったということなのか、保護者から話をしなかったということなのか明確にすることはできない。しかし、月経は女兒にも男児にも必要な知識であり、特に女兒は、身近な大人の月経に対する考え方や価値観、セルフケア行動から学ぶことが多い。性被害に関する知識も、性被害が増加している現代だからこそ、家庭内での継続した教育が欠かせない。高橋⁷⁾は、幼少期に保護者から性

教育を受けたものほど、思春期に性に関する悩み等を保護者に相談する行動をとると述べている。子ども達が成長し、性に関する悩みを抱えた際、いつでも相談しやすい関係を構築するために、子どもから性に関する質問がなくても大人から積極的に実施し、家庭内で話題づくりをしていくことが必要と考える。

2. 就学前後の子どもから性に関する質問を受けた(話をした)際の対応

就学前の保護者の7割が、挨拶の習慣、出産、親の気持ち、性被害予防について子どもが理解できる言葉で真実を伝えている実態が明らかとなった。その一方で、「赤ちゃんはどうやってできるのか」については、曖昧、あるいは嘘をついた者が7割を超えていた。また「お風呂で月経血に気づいた時」には話題を変え、あるいは気づかなかったふりをする者が最も多いことがわかった。保護者は、幼児が理解できるようにどういう言葉で伝えたらよいか苦慮している現状がうかがえる。

小学生の保護者は、14項目中12項目で8～10割の者が「子どもが理解できる言葉で話した」と回答した。その中でも「子どもが産まれた時の状況や気持ち」「赤ちゃんはどうやって大きくなるか」「親族が亡くなった時や人の死」についてそう答えた者は9割以上であった。一方、「赤ちゃんはどうやってできるのか」については、曖昧あるいは嘘をついた者が4割を超えていた。また、話をえたり聞こえなかった振りをした対応が最も多かった項目は、「LGBTについて」であった。小学校学習指導要領には、受精に至る過程は取り扱わないことが明記されており⁸⁾、LGBTに関する教育の必要性が教育現場に求められたのも平成27年以降のことである⁹⁾。保護者自身も性交やLGBTに関する教育を受けてこなかったことから、それらの内容に関して子どもに話をしたり、教育をするということは困難な状況なのではないかと考える。

3. 就学前後の子どもに家庭で性教育を行う自信の状況

就学前では「お子様が生まれた時の状況や気持ち」「ごめんなさい、ありがとう等の習慣」、小学生の保護者については「子どもが産まれた時の状況や気持ち」「赤ちゃんはどうやって大きくなるか」に関して「話をする自信がある」と回答した者が6割と最も多かった。これはきょうだいの妊娠や出産、子どもの誕生日など、自身の体験を言葉にして伝える性教

育であり、オープンにいつでも語れる内容であることが影響していたと考えられる。

一方最も自信がないものは、就学前「赤ちゃんはどうやってできるのか」、小学生「キスや性交について」であった。小学校学習指導要領においても、授業の中では受精に至る過程、つまり性交について取り扱わないことを明記しており、保護者自身もこれまでに系統的・実践的な性教育を受ける機会がなかったことが影響していると考えられる。宍戸ら¹⁰⁾によると、保護者は、マスメディアや友人から性情報を得ており、正しい性知識を学ぶ機会が乏しかったこと、性を否定的に捉え、子どもに対して性を自分の言葉で語ることが困難な現状であることを報告している。また、保護者世代が受けた性教育は、初経教育や妊娠に伴う生理的なものに留まっている場合がほとんどであり、子どもに経験を話すほどの自信にまでは至っていない¹¹⁾ことが指摘されている。

今回の調査では、全項目において「話をする自信がある」と答えた者は7割以下であった。しかし、5割以上が「自信がある」と答えた項目については、子どもから性に関する質問を受けた際、8割以上が「子どもが理解できる言葉で真実を話した」と回答した。一方、「話をする自信がない」と答えた「赤ちゃんはどうやってできるのか」「キスや性交(セックス)について」は、「曖昧に答えたり嘘を答えた」「話を変えた、聞こえなかったふりをした」対応をした者が多くみられた。よって、性教育に対する自信の有無が、子どもへの対応の仕方に影響している可能性が示唆された。保護者の性教育に対する自信を高めることによって、家庭で保護者が子どもの性に関する質問・疑問に対しても真摯に向き合う機会が増えるのではないかと考える。村井ら¹²⁾は、保護者の自己効力感向上を目的とした小学校3年生の保護者向け家庭性教育プログラムを作成・実施した結果、保護者の性教育のスキル及びそれを実行する自信が高まり、自信の有無が性教育の実践にも関わることを明らかにしている。今後、保護者の家庭での性教育スキルを向上させる支援を行い、自己効力感を高める家庭性教育支援について検討する必要があると考える。

4. 保護者が小学校での性教育に求める内容

保護者が小学校で教えてもらいたいと考えている項目の上位は「命の大切さ」「男女の身体の違い」「生理(月経)」であり、これらの内容は学習指導要領に

含まれ学校でも実施されている¹³⁾。しかし、下位項目ではあるが「望まない妊娠・避妊法」「性感染症」を教えて欲しいと考えている保護者が100名程いたことは注目すべき点である。中学3年生で避妊や性交を教えることに抗議が上がる中¹⁴⁾、小学生への性教育でその内容を教えてほしいと考えている保護者がいることは、早期から正しい知識を身につけ自分の身を守るためにそれらの知識が必要と考えているのではないだろうか。その他に「不妊症」「子育ての大変さ」に関する教育を希望している保護者もいた。簡単に性情報にアクセスできてしまう社会状況や近年児童の性被害が増加していることから¹⁵⁾も、小学生でも自分の身を守る方法や将来を見据えた教育が求められていると考える。

5. 家庭での性教育を支援する必要性

家庭での性教育について、8割以上の保護者が「必要」と考えていたが、家庭での性教育は「子どもから質問があったら行う」ことが最も多く、積極的に性教育を実施している保護者は半数程度であった。このことから、未就学児の子どもを持つ保護者同様、家庭では保護者が積極的に性教育を実施しているというよりも、子どもが性教育を実施する機会を作っていると考えられる。一方、約8割の保護者が家庭で性教育を行うための支援を必要としていることから、大人が改めて性を学びなおす機会が求められていると考える。特に話を逸らしたり嘘を答えたりする傾向にあった「キスや性行為(セックス)について」「LGBTについて」に関しては、保護者自身もこれまで教育を受ける機会がなかったことから、まず子どもに性を伝えていく役割を担う大人が、偏りのない性知識と態度を身につけることが必要不可欠である。

今回の調査で把握できた実態を基に、今後家庭での性教育支援に向けた具体的内容を考え実施していきたい。

結 論

1. 8割以上の保護者が家庭で性教育を行う必要性を感じており、その際の教育的支援を必要としていた。
2. 家庭で行っている性教育で最も多かった項目は、就学前「ごめんなさい、ありがとう等の習慣」239名(93.0%)、小学生「子どもが生まれた時の状況や気持ち」244名(88.1%)であった。

3. 家庭で行っている性教育で最も少なかった項目は、就学前「女の人におちんちんがないのはなぜか」、小学生「キスや性交について」であった。
4. 子どもから性に関する質問があった（または話をした）際「子どもが理解できる言葉で真実を話した」対応が最も多かった項目は、就学前「子どもが産まれた時の状況や気持ち」、小学生「赤ちゃんはどうやって大きくなるのか」「ママが初めて生理を迎えた時の気持ち」。「曖昧に答えたり嘘を答えたりした」対応が最も多かった項目は、就学前、小学生共に「赤ちゃんはどうやってできるのか」であった。「話を变えたり聞こえなかつたふりをした」対応で最も多かった項目は、就学前「月経について」小学生「キスや性交について」であった。
5. 話をする自信が最もある項目は、就学前、小学生共に「子どもが産まれた時の状況や気持ち」であった。逆に最も自信がないものは、就学前「赤ちゃんはどうやってできるのか」、小学生「キスや性交について」であった。
6. 話をする自信の有無が、子どもから性に関する質問を受けた際の対応に影響していることが示唆された。

今回得られた結果を基に、保護者が自信を持って子どもへの性教育を実施できるような支援を検討していきたいと考える。

本研究は、平成28年度福岡県立大学研究奨励交付金（プロジェクト研究新規分）の助成により実施し、その報告書の一部をまとめた。また、本研究は第32回日本助産学会学術集会にて発表した。

文 献

- 1) UNESCO. (2009). 浅井春夫ら(訳). 国際セクシュアリティ教育ガイダンス 教育・福祉・医療・保健現場で活かすために. 東京: 明石書店. 2018.
- 2) 佐藤香代. 性ってなに. 福岡: 西日本出版社. 1993.
- 3) 及川裕子. 幼児期の性教育の意義. 日本赤十字武蔵野短期大学紀要. 1998 ; 11 : 31.
- 4) Hicjling Meg著, 三輪妙子訳. (2004). メグさんの性教育読本. 東京: 木犀社.
- 5) 鏡原友実, 辻香, 西海ひとみら. 家族関係・友

人関係・交際相手との関係が性行動に及ぼす影響 思春期女性の語りから. 兵庫県母性衛生学会雑誌. 2010 ; 19 : 16-24.

- 6) 大蔵武雄. (1995). 現代性科学・性教育事典. 東京: 株式会社小学館.
- 7) 高橋久美子. 家庭における性教育の現状と課題 - 大学生調査を通して -. 日本家政学会誌. 1997 ; 48(4). 267-277.
- 8) 文部科学省. 小学校学習指導要領 (2017年) http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm (2018年8月20日アクセス)
- 9) 文部科学省. 性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細やかな対応等の実施について (教職員向け) (2016). http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/28/04/1369211.htm (2018年8月17日アクセス)
- 10) 穴戸章予, 斉藤益子, 木村好秀. 我が国の家庭での性教育に関する研究の動向と今後の課題. 思春期学. 2007 ; 25(3) : 337-349.
- 11) 小倉由紀子ら. 家庭での性教育における親子の意識と影響要因. 日本看護学会論文集母性衛生看護 2013 ; 43 : 96-99.
- 12) 村井文江. 家庭における性教育を支援するプログラム開発と評価. 筑波大学 2015 : 1-200.
- 13) 文部科学省. 学校教育全体(教科横断的な内容)で取り組むべき課題(食育, 安全教育, 性教育)と学習指導要領等の内容 (2005年). http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyokyo3/022/siryoku/06092114/001/004/003.htm (2018年3月29日アクセス)
- 14) 朝日新聞デジタル. 性教育への都教委指導、「不当介入」と講義 教職員ら. (2018年) <https://www.asahi.com/articles/ASL425HGML42UUPI001.html> (2018年8月20日アクセス)
- 15) 警視庁Webサイト. 平成29年における子供の性被害の状況. (2017年). https://www.npa.go.jp/safetylife/syonen/no_cp/measures/statistics.html (2018年8月17日アクセス)

受付 2018. 8. 31

採用 2019. 1. 8

